

# 特色ある読書推進活動の紹介

## 【二本松市子ども司書講座】

訪問日：令和元年7月26日（金）10：00～15：00

場 所：二本松図書館

内 容：講義・演習「読み聞かせの方法」 実習「POP・カード作成、ブックトーク」

二本松市では、読書の楽しさや大切さを友だちや家庭に広く伝えていく「子ども読書推進リーダー」を養成することを目的として、「子ども司書講座」を開催しました。市内の小学5・6年生17名が受講し、7月23日から5回に渡って司書の仕事を体験する活動を行いました。講師は、二本松市内の学校司書や図書館司書、図書ボランティア団体の方々です。

訪問当日は、児童図書研究グループ「トトロ」のみなさんによる「読み聞かせの方法」についての講義・演習と、学校司書の方々の指導による「POP・カード作成、ブックトーク」の実習が行われていました。

「読み聞かせの方法」の講義で、子どもたちはトトロのみなさんの実演から、たくさんの人を相手にして読み聞かせをする方法を学びました。本の選び方、持ち方やめくり方、そして、「絶対に自分が気に入った絵本を選びましょう。そうでないと、相手に伝わらないのです。」「読み終わった後に感想を聞かないことが大切です。」など、読み聞かせで大切な心得も教えていただきました。

その後、実際に聞き手を意識しながら本をめくる練習や、トトロのみなさんといっしょに声を合わせて群読する練習を行いました。子どもたちが熱心に話を聞く様子や、あっという間に群読をマスターしてしまう姿を見て、トトロのみなさんはとても感心されていました。

午後に行われた「POP・カード作成」では、学校司書の方が子どもたち3～4名に一人ずつついて、自分が好きな本や紹介したい本のよさをアピールするためのコツを教えていました。自分が選んだ本について、どんな言葉・文章とイラストを組み合わせれば、見る人の心に響くのか……。真剣に悩みながら、自分らしい表現を追求している子どもたちに対して、司書のみなさんは温かく見守りながらアドバイスしていました。



## 【子どもたちの声】

- トトロのみなさんから読み聞かせのやり方を学んで、「学校の図書委員会でやった時のやり方とちがうな」と思いました。「聞き手のことを考えて読む」大切さが分かりました。
- POP やカードは、多くの人に「本を読んでみたいな。」と思わせる働きがあることが分かりました。人の心をつかむPOP を書いてみたいと思いました。
- 本が好きで、将来は図書館の仕事をしたと思っています。
- 子ども司書講座で学んだ読み聞かせの方法を活かして、1年生の教室で読んであげたいです。
- もっと本のことが知りたいです。学んだことを図書委員会の活動に役立てたいです。

このほかにも講座では、「レファレンス演習」「カウンター業務の実習」「県立図書館や岩代図書館の見学」、そして最終日には、国見町の「子ども司書」のみなさんと交流を行うとのことでした。

「講座で学んだことを今後活かしたい」という子どもたちの意欲的な姿が印象的でした。